こころ ふれあい つながって 18

人権学習シリーズ

「イクメン」という言葉を聞いたことがありますか。

「イクメン」とは、育児に積極的な男性のことです。近頃では他に、積極的に家事をする「カジメン」や、退職後に孫などの世話をする「いくじい」など、家事や育児に関わる男性の呼称ができています。

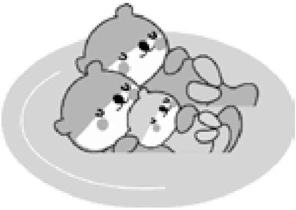
さて、厚生労働省が平成16年に行った「結婚の状況と結婚意識」に関するアンケートによると、若い女性（20～30歳）が結婚相手に望む条件として、「性格・パーソナリティー」「価値観・相性」「相手の収入・経済力」に次いで、「家事・育児に対する能力・姿勢」がランクインしています。「家事・育児に対する能力・姿勢」（30％）は、「容姿・容貌」（7.1％）の4倍ほど望まれていて、若い女性にとっての結婚相手は、二枚目のイケメンよりも、家事や育児をしてくれるイクメンの方が、より「イケている」ということになります。

ただ、平成22年度の育児休業取得率は女性の83.7％に対し、男性は1.38％です。数字の上でも、現状は女性に育児の負担が掛かっているといえます。

「イクメンこそイケメン」

男性が育児休業を取得しない理由に、家庭の経済状況や職種により簡単に取得できない場合が考えられます。また、今までの習慣や固定観念、職場の雰囲気によって、取りたくても取りづらいという人もいるかもしれません。制度のみでなく、周りの環境も取得率に作用している可能性があります。

子どものいる夫婦では、休日の夫の家事・育児時間が長いほど、次の子どもが生まれる割合が高くなるというデータがあります。少子化といわれている昨今、さまざまな面で、夫婦が相手を思いやり、理解していく努力をすることで、お互いに良い方向に進むのではないでしょうか。

＊このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
（☎880・6569）まで